

妊婦さんへ赤ちゃんからのお願い

妊娠中にワクチンを接種することで新生児（生後1か月未満の赤ちゃん）を守れるものがあります。もちろん妊婦さんも守ります。

①インフルエンザ

インフルエンザは妊婦さん、赤ちゃんが感染すると重篤化します。流行期前の毎年10月からワクチン接種が始まります。妊娠週数と関係なく接種できます。

妊婦さんも
赤ちゃんも
守られます



②百日咳

百日咳は新生児がかかると重篤化します。

妊娠30週からワクチン接種できます。不活化ワクチンなので妊婦さんが子どもの時に百日咳のワクチンを接種していても効果が下がっています。

大きなお腹で咳き込むのはとてもつらいです。

三種（百日咳・破傷風・ジフテリア）混合ワクチンで対応します。

③RS ウィルス

生後6か月までに罹患すると重篤化します。特に兄弟のいるご家庭では強く勧めます。

推奨は妊娠24週から36週です。

④Covid19 ウィルス感染

母体の重篤化を防ぎます。妊娠週数は問いません。チャンスがあれば接種をお願いします。

コロナワクチンは当院では扱えません。

◎費用◎

現在は自費診療となります

三種混合ワクチン …5,000円（税込み）

インフルエンザワクチン；3,000円（税込）

RS ウィルスワクチン；30,000円（税込み）

☆予約☆

ワクチンの数に限りがあるため完全予約制です。

妊婦検診時またはお電話で予約をお願いします。

☆☆☆RS ウィルスにはたぶんどの子ともかかります☆☆☆

小さく生まれた赤ちゃんにはシナジスの接種により重篤化症例が減りました。

生後6か月までの新生児（満期で元気に普通に生まれてきた赤ちゃんも）

が罹患すると人工呼吸器をつけなくてははいけないほどの重症化症例があります。この時期の赤ちゃんを守るために、

妊婦さんにワクチンを打つことが

推奨されます。まだまだ自費で高いのですが、

赤ちゃんを守るためのワクチンです。

是非接種を勧めます。推奨は24週から36週です。

母子免疫を利用したRSウイルスワクチンの仕組み

ワクチン

- 0.5ミリリットルを1回筋肉注射
- 妊娠24～36週の妊婦に接種

抗体

母体で作られた抗体が胎児に移り、重症化を予防

